

第1章

東京2020大会の概要

第1章 東京2020大会の概要

1 東京2020オリンピック

- ・正式名称 第32回オリンピック競技大会（2020／東京）
- ・開催期間 令和3年7月23日(金・祝)～8月8日(日・祝) 17日間
- ・競技数/種目数 33競技/339種目
- ・会場数 43会場
- ・観客 無観客 … 東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・福島県・北海道
有観客 … 宮城県・静岡県・茨城県（学校連携観戦のみ）

新宿区内での実施競技等

会場	日程	実施競技等
オリンピックスタジアム (国立競技場)	7月23日(金・祝)	開会式
	7月30日(金)～8月7日(土)	陸上競技
	8月8日(日・祝)	閉会式

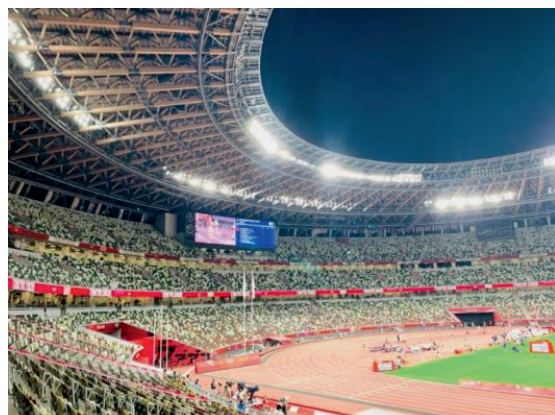
※ 8月7日(土)午前にオリンピックスタジアムで開催が予定されていた「サッカー女子決勝」は、気温上昇による競技への影響を考慮し、同日夜の横浜国際総合運動場での開催に変更となりました。



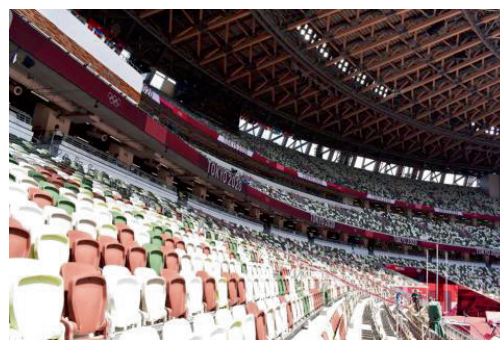
オリンピックスタジアムの外観



都内の小学校や特別支援学校の児童が育てた約1,200鉢のアサガオが選手たちを出迎えました。



オリンピックスタジアム内の様子



無観客開催でしたが、色とりどりの座席が会場の賑やかさを演出していました。

令和3年7月23日、区内にあるオリンピックスタジアム（国立競技場）で開会式が行われ、東京2020オリンピックが開幕しました。大会には、世界205の国と地域及び難民選手団の約11,000名の選手が参加しました。

オリンピックスタジアムでは、7月30日から8月7日までの9日間にわたって、陸上競技が行われました。

会場での競技観戦はできませんでしたが、テレビや動画配信などを通じて、新しくなった国立競技場における熱戦の様子が連日にわたって届けられました。

8月8日、17日間に及ぶすべての競技が終了し、オリンピックスタジアムでの閉会式をもって、大会は閉幕しました。

大会を通じて、日本選手団は過去最多となる58個のメダル（金：27個、銀：14個、銅：17個）を獲得しました。多くの会場で無観客開催となりましたが、競技の盛り上がりや選手たちの活躍は、テレビ等で観戦した多くの国民に感動を与えました。



オリンピックスタジアムでは、陸上競技43種目の熱戦が繰り広げられました。

～東京2020オリンピック出場選手インタビュー～

オリンピック陸上女子1500mに日本人として初めて出場したト部蘭さんは区立早稲田小学校・西戸山中学校の卒業生。惜しくも準決勝進出は逃したものの、自己ベストを更新する素晴らしい走りを見せてくれました。

東京2020オリンピック陸上女子1500m出場

ト部 蘭（うらべ らん）さん

区立早稲田小学校、西戸山中学校 卒業

積水化学工業(株) 所属

令和元年6月 第103回日本陸上競技選手権大会 女子800m 優勝 1500m 優勝

令和3年6月 第105回日本陸上競技選手権大会 女子800m 優勝 1500m 準優勝



夢のオリンピック出場 ～慣れ親しんだ国立競技場を走る喜びを力に

陸上の中長距離選手だった両親の影響で、物心つく前から走ることが大好きでした。いつも区内の公園や、国立競技場周辺を走って練習していました。

出場が決まった瞬間は、なじみ深い国立競技場で、幼い頃からの夢だったオリンピックで走ることができるという喜びがとても大きかったです。ずっと周辺を走ってきて、競技場が新しく生まれ変わる過程を見守ってきたからだと思います。

大会は無観客開催でしたが、各国代表の選手が集う独特の緊張感や、オリンピックならではの特別な演出が大きなモチベーションになりました。また、会場のボランティアの方々が、スタート直前まで「頑張って！」と声をかけてくれたり、温かい拍手で送り出してくれました。初めての経験に、すごく感激しました。

スタートラインに立った瞬間、「慣れ親しんだこの場所で、夢だったオリンピックのスタートラインに立っている」という実感が大きな力になりました。子どもの頃、小学校のマラソン大会で目標を立てながら練習に取り組んだところから、一つ一つ小さなことの積み重ねで辿り着いた夢の舞台。お世話になった方々への感謝や、幼い頃から慣れ親しんだ国立競技場を走ることができる喜びを胸に、トラックを駆け抜けました。

東京2020オリンピックを経験して、次はラウンドを勝ち上がり、表彰台からの景色が見てみたいと感じました。3年後のパリ大会は、最大限のパフォーマンスを発揮して表彰台に立てるよう、一日一日を大切にしたいです。

2 東京2020パラリンピック

- ・正式名称 東京2020パラリンピック競技大会
- ・開催期間 令和3年8月24日(火)～9月5日(日) 13日間
- ・競技数/種目数 22競技/539種目
- ・会場数 21会場
- ・観客 無観客（東京都・埼玉県・千葉県では学校連携観戦を実施）

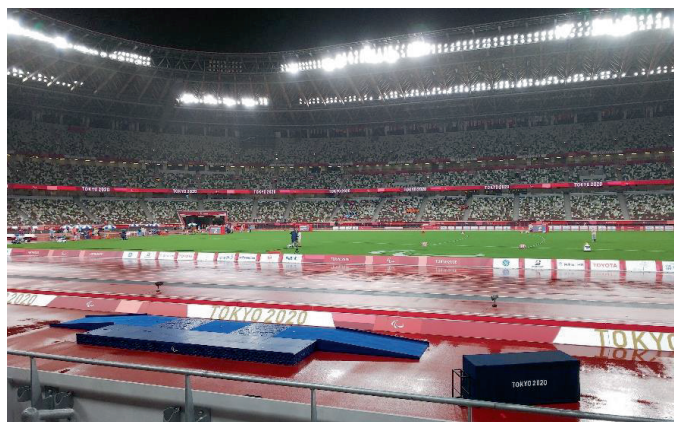
新宿区内での実施競技等

会場	日程	実施競技等
オリンピックスタジアム （国立競技場）※	8月24日(火)	開会式
	8月27日(金)～9月5日(日)	陸上競技
	9月5日(日)	閉会式

※ 9月5日(日)に実施されたマラソン競技は、オリンピックスタジアム（国立競技場）を発着点として、区内の公道を含む42.195kmのコースで実施されました。



オリンピックスタジアムの外観



オリンピックスタジアムでは、陸上競技167種目が実施されました。



オリンピックスタジアムで
パラ陸上競技を観戦する小学生の皆さん



9月5日には、66名のマラソンランナーが区内を駆け抜けました（外堀通りの様子）。

令和3年8月24日、オリンピックスタジアム（国立競技場）で開会式が行われ、東京2020パラリンピックが開幕しました。大会には、世界162の国と地域及び難民選手団の約4,400名の選手が参加しました。

オリンピックスタジアムでは、8月27日から9月5日まで陸上競技が行われました。9月5日に実施されたマラソン競技では、オリンピックスタジアムをスタートしたランナーが外苑西通り、靖国通り、外堀通りを駆け抜け、再びスタジアムに戻りゴールしました。

マラソン競技の運営では、区の施設（四谷ひろば、四谷保健センター、四谷スポーツスクエア、防災センター）を活用し、大会スタッフやボランティアをサポートしました。

また、9月1日～3日及び5日の計4日間、学校連携観戦プログラムが、徹底した感染症対策及び熱中症対策のもとで実施されました。区立小学校（第4学年～第6学年）、中学校（全学年）の児童・生徒が、オリンピックスタジアムで陸上競技を観戦しました。

9月5日、13日間に及ぶすべての競技が終了し、オリンピックスタジアムでの閉会式をもって、大会は閉幕しました。日本選手団は、アテネ2004大会に次いで史上2番目に多い51個のメダル（金：13個、銀：15個、銅：23個）を獲得しました。全会場で無観客開催となりましたが、パラリンピアン達の想像を超えるパフォーマンスは、テレビ等で観戦した多くの国民に感動を与えました。



四谷ひろば運営協議会の協力のもと、マラソン競技の運営に役立てられました。

～東京2020パラリンピック出場選手インタビュー～

3大会連続でパラリンピックに出場された、新宿区在住のパラリンピアンである高桑早生さんに、東京2020大会で国立競技場を走った感想などをインタビューしました。

東京2020パラリンピック女子走り幅跳び(T64) 8位入賞、陸上女子100m(T64)出場 高桑 早生（たかくわ さき）さん

NTT東日本 所属

ロンドン2012パラリンピック陸上女子(T44)100m7位、200m7位

リオデジャネイロ2016パラリンピック陸上女子(T44)走り幅跳び5位、100m8位、200m7位

*パラ競技クラス分けの表示はアルファベットで種目（例：Tはトラック・Fはフィールド種目等）、数字で障害の部位等を表しています。（例：63は片足ひざ上、64は片足ひざ下切断等）



東京大会をきっかけに～パラ競技の魅力を発信し続けたい～

中学1年生のときに病気で義足になり、高校入学を機に競技用の義足をつけて走りたいという熱い思いから競技を始めました。ちょうど2008年の北京大会の時、パラリンピックが注目され始めた頃でした。頑張った先には「パラリンピックがある」というイメージができて4年後のロンドン大会を目指してトレーニングを始めるようになりました。

新宿は幼い頃から祖父母が住み慣れ親しんだ場所。東京大会の出場が決まったときは、「国立競技場で走ることができる」と、ほっとしました。直近の大会で記録が伸び悩んでいましたが、出場が叶わなかった選手の分まで頑張ろうと思いました。大会に向けて、義足作りの技術者の方にご協力いただき日本製の競技用義足で出場することができました。

大会は無観客開催となりましたが、テレビを通して沢山の人がパラ競技を応援してくれる状況が生まれたのはとても良かったです。本来であれば、地元である区民の皆様は、全身全霊で大会を楽しんでいただけるはずでしたが、競技場内での観戦は叶いませんでした。そのような中でも、オリパラ教育や街中のラッピングを通じて区民の皆様が、パラリンピックに注目していただけて大変嬉しく思います。この機会に知っていただいたことを、東京大会で完結するだけでなく、「障害を持っていても、パラリンピックを目指すことはもちろん、誰もがスポーツができる、体を動かすことができる」ということを実感してもらえようパラリンピック競技を通じて、発信していきたいです。

3 東京2020大会の大会ビジョン等

(1) 大会ビジョン

スポーツには世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。

東京2020大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページより引用

(2) 東京2020エンブレム「組市松紋」

東京2020大会の象徴ともいえる「東京2020エンブレム」は、平成28年4月25日に決定しました。

日本の伝統色である藍色を用いて日本らしさを表現しつつ、形の異なる3種類の四角形は、国や文化・思想などの違いを示しています。

違いはあってもそれらを超えてつながり合うデザインに、「多様性と調和」のメッセージが込められています。

この「東京2020エンブレム」を制作したのは、新宿区出身の美術家である野老朝雄（ところ あさお）氏です。

野老氏には、新宿フィールドミュージアムシンポジウム「新宿サンクチュアリ2020」（平成29年10月27日開催）への出演や、広報新宿東京2020オリンピック・パラリンピック特集号（令和元年8月5日発行）における区長との対談のほか、令和2年度には、新宿を象徴する新たな紋（マーク）である「新宿小寄紋」をデザインしていただくなど、新宿区のさまざまな取組みにご参画いただきました。



野老朝雄氏(左)と吉住区長(右)

(3) 東京2020マスコット

東京2020オリンピックマスコット「ミライトワ」及び東京2020パラリンピックマスコット「ソメイティ」。今大会では、史上初めて全国の小学生によるマスコットの選定が行われました。

学級単位で投票が行われ、新宿区立小学校全校の学級も参加しました。全国で205,755の学級の投票により、平成30年2月28日に大会マスコットが決定しました。



東京2020オリンピックマスコット「ミライトワ」(左)
東京2020パラリンピックマスコット「ソメイティ」(右)

4 聖火リレー

(1) 東京2020オリンピック聖火リレー

東京2020オリンピック聖火リレーは、「Hope Lights Our Way／希望の道を、つなごう。」のコンセプトのもと、桜の季節の訪れとともに、令和3年3月25日に福島県を出発し、121日間を通じて日本全国47都道府県を巡りました。

東京都のオリンピック聖火リレーは、7月9日から7月23日まで15日間の日程で実施されました。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うまん延防止等重点措置（～7月11日）及び緊急事態宣言（7月12日～）により、公道走行は中止（大島町以外の島しょ地域を除く）となりましたが、各セレブレーション会場で点火セレモニーが実施されました。

新宿区には、最終日の7月23日に聖火が到着しました。東京都庁の都民広場において、区内を走行予定だった31人の聖火ランナーがトーチキスをつなぎ、最終ランナーが聖火皿に点火しました（詳細は、第3章P.72参照）。

また、当日は、航空自衛隊のアクロバットチームであるブルーインパルスが聖火の到着を祝い、オリンピックスタジアム上空などでオリンピックシンボルを描きました。



都民広場における点火セレモニー

(2) 東京2020パラリンピック聖火リレー

東京2020パラリンピック聖火リレーは、「Share Your Light／あなたは、きっと、誰かの光だ。」のコンセプトのもと、令和3年8月12日から8月24日の日程で開催されました。

パラリンピック聖火は、イギリスのストーク・マンデビルと開催国内各地の複数箇所で採火される炎から生み出されます。東京都においては、8月20日に都内62区市町村で採火された火の集火式が行われ、8月24日までの5日間で聖火リレーが実施されました。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の延長により公道走行は中止となりましたが、各セレブレーション会場での点火セレモニーや、各区市町村における聖火ビジットなどが行われました。

新宿区では、区役所本庁舎の平和の灯から採火を行いました。また、区内では、障害者福祉センターをはじめとする福祉施設4所で聖火ビジット（聖火の訪問・展示）を行いました。なお、新宿区を走行予定だった聖火ランナーは、東京都障害者総合スポーツセンターで行われた点火セレモニーにおいて、トーチキスを行いました。（詳細は、第3章P.73参照）。



区役所本庁舎前で行われた採火式



障害者福祉センターにおける聖火ビジット

～オリンピック・パラリンピックとは～

◆ オリンピック

オリンピック（近代オリンピック）は、1896年のアテネ大会から始まった世界的なスポーツの祭典です。スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でより良い世界の実現に貢献することを目的としています。

これまでに32回の夏季大会（うち3回が中止）、22回の冬季大会が行われています。日本では、1964年の東京大会（夏季）、1972年の札幌大会（冬季）、1998年の長野大会（冬季）に続き、今回の東京2020大会（夏季）が4回目の開催となりました。



オリンピックシンボルのモニュメント

◆ パラリンピック

パラリンピックは、障害者を対象とした、もうひとつ（Parallel）のオリンピックです。1960年のローマ大会に始まり、これまでに16回の夏季大会、11回の冬季大会が行われています。日本では、1964年の東京大会（夏季）、1998年の長野大会（冬季）に続き、今回の東京2020大会（夏季）が3回目の開催となりました。

～東京1964オリンピック・パラリンピック～

前回、東京にオリンピック・パラリンピックがやってきたのは1964年のことでした。

大会の開催に合わせて、東京には首都高速道路や東海道新幹線が開通、都市機能が飛躍的に発展するとともに、日本は高度経済成長の足がかりをつかみ、世界に戦後の復興をアピールしました。

東京1964オリンピックは、93か国から5,152名の選手が参加し、日本人選手は、金メダル16個、銀メダル5個、銅メダル8個、計29個のメダルを獲得しました。なかでも“東洋の魔女”と呼ばれた女子バレーボールチームは、決勝で強豪ソビエト（現ロシア）と対戦し、ストレート勝ちで金メダルを獲得。国民を熱狂させました。

東京オリンピックの功績は都市の発展や経済成長のみならず、日本にスポーツを普及させた点にあると言われています。日本サッカーリーグの誕生、スポーツクラブの一般化など、日本でスポーツが生活の一部となるきっかけとなりました。

一方、アジア初の開催となった東京1964パラリンピックは、21か国から378名の選手が参加し、日本人選手は、金メダル1個、銀メダル5個、銅メダル4個、計10個のメダルを獲得しました。

◆ 第18回オリンピック競技大会(東京)

昭和39年10月10日～10月24日

20競技163種目、93の国と地域から5,152名が参加※

◆ 東京1964パラリンピック(東京)

(正式名称 第13回国際ストーク・マンデビル競技大会)

昭和39年11月8日～11月12日

9競技144種目、21の国から378名が参加※

※日本オリンピック委員会HP、日本パラリンピック委員会HPをもとに作成